

社会運動と社会教育 第2回

担当：奥村旅人

そもそも社会教育とは？（再掲）

- **社会教育**…学校教育・家庭教育を除いた組織的な教育活動。
→学校教育システムの外で行われてきた教育活動と捉えていた
だければ良い。
- **cf. 生涯教育・生涯学習**…教育を、学校に限らず、時間的にも
空間的にも拡張した概念である。
- **行政社会教育vs自己教育運動**という（古びた？）対立構図
…行政社会教育が犯した大きな罪。
今回扱うのは、自己教育運動として括られる活動。

今回のテーマ

- システムとしてある程度完結している学校教育と異なり、社会
教育事業の存立基盤は教育の文脈の外部に求められる。
…学校システム外の「学校」は、多くの場合何らかの<運動>
をその駆動力としてきた。
- 自由大学、政治大学、京都人文学園、市民大学など
…農民運動、政治運動、文化運動、市民運動など依拠する<運
動>は多様。
だが、社会教育の豊かな空間には常に<運動>があったと言っ
て良い。

今回のテーマ

- 「労働学校」は労働運動をその駆動力にしてきた一はずである。
だが、その駆動力が弱まったとき、学びの空間は無くなるか、
姿を変えて存続するかしかない。
- これらの「学校」がそれぞれに目指してきた<対抗学問>
○○のための学問という形で、既存の学問を規定する権力性
（政治、資本、アカデミズムなど）を批判し、様々な自らの知
を紡ごうとした場として、これらの「学校」を捉えると
…今はどうなっているのか？

今回のテーマ

- 予定変更…戦前期労働学校→戦後期労働学校
- 1945年以降の日本社会の変容の中で、「労働者」に対する教育はいかに変容してきたのか。

占領期の教育空間—京都人文学園

- 京都に残存する「労働学校」・京都労働学校と、その前身である京都人文学園が今回の対象。
→働く人々に対する教育活動の内容は、いかに変わってきたのか、そして今どのような状況にあるのか、どうあるべきなのか。
- 京都人文学園：戦前期に「**文化運動**」を標榜し、『世界文化』『土曜日』を発刊して反ファシズムの論陣を張った**新村猛・久野収**
+ 戦前期には総同盟（労働組合）の**政治運動**に関わった**住谷悦治**らが創設した各種学校。

占領期の教育空間—京都人文学園

- 試験・出席の撤廃、教育者からの一方的な教授の否定など、戦前期学校教育への批判に基づいた教育活動を展開した。
- その主な教育内容は**人文科学**（哲学や歴史学）、対象は青年一般。
- 1949年には、勤労者を対象とした夜間部制へと移行し、教育内容の中心に**労働問題や社会科学**（いわゆるマル経）を置く。
- 1957年に京都市労政部や京都勤労者教育協会との結びつきを強めて京都労働学校へと改組、現在に至る。

京都労働学校の戦後史—成長期から現在

- 京都労働学校に改組後
…京都労働学校の65年の歴史を、Ⅰ「**労働学校**」期＝**創立期**（1957年創立～1974年の府市民教室設立まで）、Ⅱ**過渡期**（1975年～府市民教室の影響が京都労働学校の教育内容に表れる1989年）、Ⅲ「**市民教室**」期（1990年～現在）と区分し、それぞれの特徴を眺める。
- 京都労働学校の変容を、同時期の企業内教育や文部省社会教育と比較しつつ検討してみる。
→資料②へ